

働く意義と目的を探究し、勤労観を育てる指導の工夫
—自己の体験への気づきや価値を認識するワークシートの活用を通して（第3学年）—

総合的な学習の時間学習活動案

「子どもの仕事って、なあに？」 —わくわく WORK お仕事隊—



沖縄県立総合教育センター後期長期研修員検証授業案

北谷町立北谷第二小学校

比嘉 真弓

担当指導主事 宮城 康人

2009 年 1 月

総合的な学習の時間「キャリア教育」学習活動案

平成 21 年 1 月 9 日（金） 2 校時
北谷町立北谷第二小学校 3 年 2 組
男子 17 名 女子 16 名 計 33 名
授業者 比嘉 真弓

1 単元名 「子どもの仕事って、なあに？」 —わくわく^{ワーク}WORKお仕事隊—

2 単元目標

- 地域社会で働く人に出あい、インタビューなどの体験活動を通して、課題を持ったり、働く意義と目的を理解したりすることができる。
- 家庭での仕事を体験することを通して、自分の役割や働くことの楽しさが分かり、自分の役割に対して責任を感じ、最後までやりとおすことができる。
- 体験したことを自分の言葉でまとめたり表現したりすることにより、自分の体験に気づき、自己の体験の価値を認識することができる。

3 単元設定の理由

(1) 教材観

児島邦宏（2006）は、学校教育と職業生活との接続を求めた背景として、新規学卒者のフリーター志向の広がり、進学も就職もしていない高卒者の増大（いわゆるニート）、新規学卒者の就職 3 年以内の離職の増大をあげている。

こうした中で今、小学校段階から「働くこと」「学ぶこと」「生きること」への意欲や態度、自立意識や目的意識を培い、社会人・職業人としての必要な基礎的・基本的な資質や能力を身に付けさせることが極めて重要であることから、キャリア教育の推進が強く求められている。また小学校教育活動全体を通じて、計画的、組織的に行う必要性が求められているが、総合的な学習の時間を核としてキャリア教育を展開することは「生きる力」をはぐくむという共通な方向性を示していることから学習課題の視点としてふさわしいといえる。

では、本単元で育てたい勤労観とは、一つめに地域で働く「人」を通して、自分たちの生活を支えていることを理解し、感謝することができること。二つめに家庭の「仕事」を通して、自分の役割や働くことの楽しさが分かり、自分の役割を最後までやりとおすことができることである。

そこで、働く意義と目的を探究する場として「地域社会」と「家庭」を設定した。そしてそれぞれの場に体験活動を位置づけ、働く意義と目的を理解させ、自分の役割を見だし主体的に遂行する態度が身につくことにより、勤労観が育つであろうと考え、本単元のテーマ「子どもの仕事って、なあに？」サブテーマ「わくわく WORK お仕事隊」を設定することにした。

(2) 児童観

児童及び保護者に勤労観・職業観に関する事前調査を行い、下記の通りの結果となった。（一部抜粋）
＜児童の実態事前調査より＞

調 査 項 目	「とてもそう思う」と回答
①学校生活や勉強は、大人になったとき役に立つと思う。	9 4 %
②当番や係の仕事を進んでやっている。	5 5 %
③当番や係の仕事を最後まできちんとやることができる。	6 7 %
④自分のやりたいこと、よいと思うことは進んでやっている。	5 5 %

< 保護者の実態事前調査より >

調 査 項 目	「よくある」と回答
①子どもと一緒に日曜大工や庭の手入れなどの作業をすることがある。	10%
②親が働いている仕事場に連れて行くことがある。	23%
③お子さまは、家のお手伝いをしている。	毎日する23%

【考察】「学校生活や勉強は、大人になったとき役に立つ」とほとんどの児童が肯定的に考えている。

その一方、「当番や係の仕事を進んでやったり、最後まできちんとやったりすることができる」児童は約半数で、残りの半数は、仕事は仕方ないから、与えられたから、注意されるからやっていると考えられる。また前述のことと関連して「自分のやりたいことやよいと思うことを進んでやる」児童も半数であることから、大人になったときに役に立つと考えていながら、実際には学校生活や勉強の中で自分の役割を見だし、主体的に遂行する態度が全体的に十分身に付いているとはいえない。

保護者の実態調査から、親の働く姿を見る子どもは少なくなっているといえる。また、家の手伝いさえも毎日継続している児童が少ないことから、このような結果が子どもたちの勤労観、職業観をはぐくんでいく上で、大きなマイナス要因となっているといえる。

(3) 指導観

総合的な学習の時間の目標(1)「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと」に示されているように、本單元においても教科との関連を計画した。(図1)教科で習得した知識や技能を活用し、総合的な学習の時間で探究することにより教科横断的な学習によって学んだことが総合的に働かせる力や生きて働く力として子どもたちを育てることができると考えた。

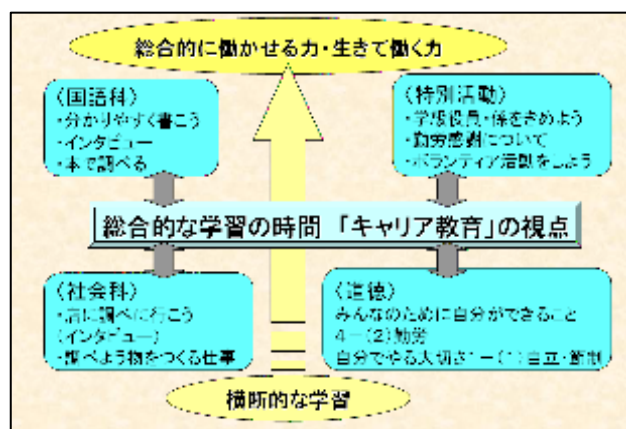


図1 総合的な学習の時間と教科との関連

また、実態調査の考察結果から働く意義と目的を探究する場は「地域社会」と「家庭」とし、小学校3年生の発達段階における働く意義と目的は、表1の職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組みとして、キャリア教育4能力領域8能力にまとめた。指導計画全17時間の中にも記号を使用して位置づけた。

本單元では子どもたちが自分の体験に「気づき」、自己の体験の価値を「認識する」力を育て、体験活動のふり返りや学んだことを「言語化」「文章化」する力を形成するためにワークシートの工夫と活用を試みた。

表1 職業観・勤労観をはぐくむ学習プログラムの枠組み(小学校3年生)

人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
A1 (自己の理解力) ・自分の生活を支えている人に感謝する。	B1 (情報収集・探索能力) ・いろいろな職業や生き方があることがわかる。	C1 (役割把握・認識能力) ・互いの役割や役割分担の必要性がわかる。	D1 (選択能力) ・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。
A2 (コミュニケーション能力) ・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。	B2 (職業理解能力) ・働くことの楽しさがわかる。	C2 (計画実行能力) ・計画作りの必要性に気づき作業の手順がわかる。	D2 (課題解決能力) ・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやりとおそうとする。

4 評価規準

本研究における評価は、国立教育政策研究所の「総合的な学習の時間の授業と評価の工夫」において提示された、教科と同様の4観点に基づいて行う。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
①地域で働く人に関心をもち、進んで計画し実践しようとする。 ②家庭での仕事に関心をもち、進んで計画し実践しようとする。	①自分の体験に気づき、自己の体験の価値を認識する。 ②自分の役割に対して責任を感じ、最後までやりとおしてできることを考える。	①尋ねる内容を考えて、インタビューができる。 ②体験したことを自分の言葉でまとめ、表現する。	①働く意義と目的を理解する。 ②自分の役割がわかり、楽しく働くことができる。

5 指導計画と評価計画（全 17 時間）

段階	育てたい力	主な学習時活動〈時数〉	キャリア教育4能力				評価の視点				評価方法
			人間	情報	将来	意思	関意	思判	技表	知理	
ふれる・出あう・つかむ	①課題発見力	1「わくわく work お仕事隊」地域（校区）で働く人を探す。〈2〉		B1			①			①	ワークシート① 発表
		2 地域で働く人のイメージマップを作る。〈1〉		B1					②		ワークシート② 発表
		3 課題を見つけ、課題を決定する。〈1〉				D1	①				課題見つけ・決めカード
追究する	②課題追究力 ④人間関係力	4 地域で働く人にインタビューをする。〈2〉		B1			①		①		ワークシート③ ワークシート④
		5 中間報告会を開く。〈2〉	A1	B1					②	①	発表資料 ワークシート⑤
		6「子どもの仕事って、なあに？」体験活動の計画を立てる。〈1〉				D1	②				ワークシート⑤
		7 家庭での仕事を体験する。（情報交換）〈1〉		B2		D2	②			②	ワークシート⑥
		8「冬休みお手伝い大作戦！」冬休みの計画立てる。〈1〉			C2		②			②	ワークシート⑦
まとめる・生かす	③技能・表現力 ④人間関係力	9 仕事体験のまとめをする。〈3〉	A2						②		発表資料
		10 「子どもの仕事って、なあに？」の発表会をする。〈前半1〉		B2				①	②		ワークシート⑧
		〈後半1〉・・・本時		B2	C1					① ②	発表 ワークシート⑨
		11 「子どもの仕事って、なあに？」のふり返しをする。〈1〉				D1		②			発表 ワークシート⑩

6 本時の指導 10 次 (16 時間目/17 時間)・・・検証授業

(1) 本時の目標

- ① 発表会の質問や感想の交流を通して、3年生の発達段階における働く意義と目的を理解することができる。
- ② 今までの体験活動を通して、自分の役割を見いだすことができる。

(2) 授業仮説

- ① 発表会の場で、キーワードをもとに発表したり、聞いたりすることにより、3年生の発達段階における働く意義と目的を理解することができるであろう。
- ② まとめの場で、地域で働く人のインタビューや家庭での仕事体験を想起することにより、自分の役割を見いだすことができるであろう。

(3) 本時の展開

	学習活動	教師の支援◇・留意点◆	【評価規準】(方法)	準備・資料
導入 5分	1 前時の学習を想起する。 2 めあての確認をする。 「家庭でのお仕事にチャレンジ!」と「冬休みおてつだい大作戦!!」の発表会をしよう。(後半)	◇発表会の前半を想起させる。		タイトル めあて
展開 25分	3 発表会の後半を開く。 ・話し手は、体験活動のワークシートや発表資料をもとに話す。 ・聞き手は、簡単なメモを取りながら聞く。 ・発表を聞いて、質問や感想の交流をする。	◇発表会の方法を確認する。 ◆キーワードの「きっかけ」「仕事内容」「やりがい」「苦労」「家族の感想」「自分の感想」に気をつけて、発表したり、聞いたりさせる。 ◇発表方法が分からない子には「発表お助けカード」を活用させる。 ◆自分の意見や気持ちをわかりやすく表現させる。	【技能・表現】 ・体験したことを自分の言葉でまとめたり、表現したりしている。 (発表・資料) 【知識・理解】 ・体験活動を通して、働く意義や目的を理解している。 (ワークシート)	発表資料 キーワード パソコン プロジェクター スクリーン 発表お助けカード ワークシート 探検バッグ
まとめ 15分	4 発表会全体のまとめをする。 働くって、「だれのため？」 5 今日の学習の感想を発表する。 6 次時の予告をする。	◆今までの体験活動を想起させ、働くことはだれのためなのかを話し合う。 ◇「子どもの仕事って、なあに？」について話し合うことを知らせ、意欲を持たせる。	【知識・理解】 ・体験活動を通して、自分の役割がわかる。 (発表・カード・ワークシート)	掲示用資料 テーマ

(4) 評価

- ① 発表会の質問や感想の交流を通して、3年生の発達段階における働く意義と目的を理解することができたか。
- ② 今までの体験活動を通して、自分の役割を見いだすことができたか。

(5) 板書計画

「子どもの仕事って、なあに？」

めあて

「家庭でのお仕事にチャレンジ！」と「冬休みおてっだい大作戦！！」の発表会をしよう。
(後半)

働くって「だれのため？」

「わくわく WORK お仕事」

だれかのためだけ？

きっかけ

仕事内容

学校

家庭

地域

やりがい

苦 労

家族の感想

自分の感想

(6) 場の設定：図工室 1 F

